

夢のつばさ♥プロジェクト 2017年度 事業報告書
2017年4月1日～2018年3月31日

1. キャンプ

(1) 夏キャンプ

【実施期間】2017年8月3日～8月6日

【開催地】(株)ブリヂストン保養所 奥多摩園 (青梅市)

【参加内訳】子ども26名、学生ボランティア・OB/OG 55名(途中入替わり含む)、社会人ボランティアスタッフ・協力者9名

【主な内容】

8月 3日	開会式、アイスブレイクゲーム、ゆめ活(子どもの役割決め)
8月 4日	朝の勉強会、大学見学、大学生の生活紹介
8月 5日	朝の勉強会、料理対決、音楽会
8月 6日	閉会式、写真スライドショー

(2) 秋の交流会

【実施日】2017年10月15日

【開催地】宮城県仙台市(青葉区三本松市民センター、西公園)

【参加内訳】子ども18名、学生ボランティア・OB/OG23名、社会人ボランティアスタッフ3名

【主な内容】夏・冬の宿泊キャンプに参加した子どもと心の交流を続けるために被災地で行う日帰り活動。午前中は市民センターでレクリエーションゲーム。保護者の方たちと学生の代表数名、社会人スタッフによる懇談会も行った。午後は西公園で運動会を実施した。

(3) 冬キャンプ

【実施期間】2017年12月23日～26日

【開催地】(株)ブリヂストン保養所 奥多摩園 (青梅市)

【参加内訳】子ども21名、学生ボランティア・OB/OG 48名(途中入替わりを含む)、社会人ボランティアスタッフ・協力者15名

【主な内容】

12月 23日	開会式、アイスブレイク、ゆめ活	受験生 プログ ラム
12月 24日	朝の勉強会、クリスマスボール・木の組み立てツリー制作、大学生の「将来像や夢」紹介劇、音楽会(グランドハープ)、クリスマス会、	
12月 25日	朝の勉強会、子どもの「将来の夢を探そう」企画、「将来の夢を語ろう」企画	
12月 26日	閉会式、写真スライドショー	

(4) 2018年春の交流会

【実施日】2018年3月25日

【開催地】宮城県仙台市(宮城野区中央市民センター、生涯学習支援センター)

【参加内訳】子ども19名、学生ボランティア・OG/OB20名、社会人ボランティアスタッフ3名

【主な内容】被災地で行う日帰り活動。午前中は市民センターでチーム対抗お菓子作り。午後は生

涯学習センターで運動会を行った。保護者の方たちと学生の代表数名および社会人スタッフは、午前中に生涯学習センターで懇談会を実施。

2. その他事業

(1) 広報活動

以下のイベントで夢のつばさプロジェクトの活動紹介を行った。

日時	イベント（実施者）	対象	場所
2017. 4. 8	東京女子医科大学看護専門学校（滝澤）	看護学生 約80名	東京都
2017. 5. 27	田園調布学園土曜プログラム（滝澤）	中高生 約40名	東京都
2017. 7. 29, 30	たまプラーザ夏祭り（学生）	一般不特定多数	横浜市
2017. 8. 3	日本の次世代リーダー養成塾（室伏）	高校生・教員等約300名	宗像市
2017. 8. 2	（株）ブリヂストン表敬訪問（プロジェクト参加高校生5名、学生・OBOG代表、室伏、滝澤）	役員10名	東京都
2017. 10. 29	豊洲市民マラソン（学生）	一般不特定多数	東京都
2018. 2. 16	（株）富山房インターナショナル主催 第133回サイエンスカフェにて（室伏）	一般 約40名	東京都

(2) ボランティア学生及び OG・OB の活動

例年と同じく、ボランティアの大学生らは、週に1回、お茶の水女子大学内で会合を開き、夏・冬のキャンプや秋・春の交流会の企画・準備を行い、イベント終了後には振り返りの会を開いている。OB/OG組織が有効に働き始め、これまでの経験や子どもへの配慮が継承されて良い活動が続いている。このところ男子学生の活動への参加が少ないが、OBがイベントごとに10名以上参加して補っている。

夏・冬イベントの間には子どもたちへ誕生日カードを送ったり、近況を報告しあう新聞を定期的に発行したりして交流を図っており、子どもや保護者から好評である。夢のつばさプロジェクトの広報や活動資金獲得についても自主的な活動を続けている。たまプラーザ商店街の夏祭り、豊洲市民マラソンには引き続き有志が参加してイベントを手伝い、広報・寄附活動を行った。

参加者の学年が上がっていることから、「webを利用して、日常的な学習支援をする」ことの提案がOB/OGによってなされている。年数回のイベントのみでなく、年間を通じて子どもに関わろうというもので、現在、パソコンまたはタブレットを利用する計画を立案中である。こうした家庭教師／個人指導が開始されれば、大学生や若い社会人がどの程度責任を持って関わられるのかなど、課題もあることと思われる。社会人スタッフを交え、課題の洗い出し、実現の可能性について精査する予定である。資金などの獲得についてもOB/OGを中心に調査している。

3. 総括

昨年度にひきつづき、活動は順調に進められている。例年と同じく、東北3県各地の教育委員会や児童家庭課等を通じて一般に募集を行っており、イベント終了後には各教育委員会へ連絡報告を行って連携を取っている。冬のキャンプには、秋田県から初めて参加者があった。新幹線では、秋田駅からキャンプ地の青梅市まで6時間かかり、朝、東京から現地へ出迎えとなればほぼ1日を費やすため、社会人スタッフが前泊して送迎にあたった。対象のご家族は、被災し父親が亡くなられた後に秋田県内に移られたそうだが、これまで秋田県の教育委員会へは夢のつばさプロジェクトの募集をしてこなかった。飛

行機を使っても時間的にはそれほど短縮にならないため、送迎の手配なども勘案しなければならないが、周りに被災の方たちも少ない中で子育てをしている方もいらっしゃると思われるため、次回のご案内を東北各県へ拡大するか検討中である。

OB/OG が意欲を持ってこの活動に取り組もうとしていることは、本事業の継承に向けて、たいへん心強いことである。但し、専従のスタッフがないまま、新しい学習支援プログラムを進めることには慎重を期さなければならないと考えており、検討を重ねている。また開始にあたっては、夢のつばさ内部の予算を充当する予定である。昨年度もご報告したが、保護者からも学習支援や生活指導への希望も多く寄せられている。夢のつばさが目指す、子どもの自律を育むプログラムとして有効有益なものとなるか、検討しているところである。

次年度は、高校生になってから参加した子ども 1 名が仙台市内の保育の短大へ進学する。プロジェクト参加の期間は短かったが、高校卒業お祝い金を贈った。今後も夢のつばさのイベントにスタッフとして参加を希望している。

夢のつばさプロジェクトは、2017 年度 11 団体、個人 91 名（2016 年度：10 団体 96 名、2015 年度：19 団体 153 名、2014 年度：22 団体 217 名）からご寄附をいただいた。東日本大震災から丸 7 年が経ち、個人寄附者数は減少が続いているが、継続してあるいは複数回ご支援くださる方や、団体、企業などに支えられて活動を続けている。ご寄附下さった方へお送りする夢のつばさ通信は 12 月に第 11 号、1 月に 12 号を発行した。